



先月号でお知らせしました「北総研 公開デー2014」について、詳細が決まりましたので、お知らせします。

★お子様方の自由研究にも！万一の災害への備えにも！お役立ち。

遊べる！学べる！15の体験コーナーをお楽しみください。

★大人向けコーナーも2つ！まだ席に余裕がありますので、ご希望の方は是非お申し込みください。

「旭川建物ウォッチング」では、バスとウォーキングで旭川の歴史的建物を巡ります。

「道総研サイエンスカフェ」では、元北総研職員の工学博士たちと、お茶をしながら、建物やまちについてお話しします。日頃のお悩みをぶつけてみては！？

★会場内には売店もあります。

販売内容はかき氷、たこ焼き、おむすびなどです。

詳しい内容や事前のお申し込み方法は、下記北総研ホームページをご覧ください。  
<http://www.nrb.hro.or.jp/140802koukai.html>

日 時：平成26年8月2日（土）  
10：00～16：00

場 所：北方建築総合研究所  
旭川市緑ヶ丘東1条3丁目1-20  
（リサーチパーク敷地内）

多くの皆様のご来場をお待ちしております。

（企画課 北谷）

=====  
トピックス 「北海道沿岸都市の津波防災都市づくりへ向けた基礎的研究」  
=====

かわらばん vol. 49でご紹介したとおり、我が国では現在、頻度は少ないが甚大な被害が想定される「L2津波」に対応し、「避難」を中心としたハード、ソフトを総動員した津波に強い都市づくりが求められており、北総研では、対策を検討するための基礎的知見として、現在の沿岸都市が津波避難においてどのような課題を抱えているかを調査分析しています。

平成25年度は、太平洋沿岸の津波浸水予測図（H24.6.北海道）に基づき太平洋沿岸の都市計画を有する都市を対象として、津波避難に関連する市街地の特徴を、（1）ハザード要因として到達時間や浸水深、（2）社会特性として避難対象者数・建物数および災害時要援護者数など、（3）避難特性として道路ネットワークを踏まえた非浸水区域までの避難距離や津波避難ビル候補となる建物数などにより整理しました。  
これらに基づき、津波到達時間内にほとんどの住民が高台に避難可能と想定さ

れる地域、高台が近くにないため公共・民間の津波避難ビルにより対応すべき地域、避難距離は長いが津波到達時間が長いため広域での避難で対応すべき地域などに分類しています。

今年度は、いくつかの市町村を対象に、津波避難を円滑化するため避難者属性に応じた居住場所、避難先の確保、避難路の整備、避難手段の選択などの観点から、避難安全性に関する課題について詳細に検討していきたいと考えています。

(居住科学G 石井)

=====  
研究紹介「道内自治体の住替え推進施策支援に関する研究  
—その2 住宅ミスマッチ解消のための住替え施策—  
=====

少子高齢化による人口構成の変化に伴い、世帯人員の少ない高齢世帯が大きな戸建住宅に住み、子育てなど世帯人員の多い若年世帯が小さな借家住宅に住むといった世帯人員と住宅面積のミスマッチが生じており、問題となっています。

本研究では、道が公募した滝川市をモデルとしてこのようなミスマッチを解消する施策について検討しました。

住替え等意向調査から、借家若年世帯は、戸建住宅への住替え意向がある世帯が多いこと、戸建高齢世帯でも1割程度が住み替えを希望しており、そのうち約3割はサービス付き高齢者向け住宅（以下、“サ付き”）へ住替え意向があることが分かりました。また、サ付きの事業収支を試算し、一般の高齢者向け住宅と比較し、サ付き事業の優位性を明らかにしました。さらに、住替え円滑化のため、多数のサ付き住宅がある札幌市での相談内容を分析し、相談体制を提案しました。

それら結果も踏まえ、滝川市ではサ付住宅建設への支援、高齢者の引越代の補助、高齢者が引越した後の住宅に若年者が入る場合の住宅改修費や家賃に対する補助、福祉・金融・不動産が連携した高齢者の住替え相談体制などが実施されました。

市町村でこのような住宅ミスマッチ解消のための住替え施策を検討する際にはご相談ください。

(居住科学G 福井)

=====  
最近の研究所の動き  
=====

■【ひとことエッセイ～陸前高田から～】

あの日以前の、すがた・なりわい・ひとを全く知らない人間が、偶然の縁の重なりから、震災直後にこのまちに来て、言葉にできない悲しみと無力さを感じ早いもので3年4ヶ月、今回で50回目の訪問となった陸前高田にいる。

わずか1時間で、数十年分の人口減少が生じたまちで、ひとの命を守ることができず、破壊された公共施設群と歩くことさえままならない瓦礫の中で、茫然と立ち尽くしていた広大な浸水地は、いま、夏花が咲きみだれ、中心市街地再生や高台移転に向けた槌音が早朝から深夜までなり響いている。

この3年あまり、復興とは何か、何をめざし、何ができるかという自問自答が寝ても覚めても頭から離れることはないまま、いまに至っている。

このまちに外から入るものが相当少なくなっている中で、その人間の使命として、ただ寄り添うのではなく、いま思うゴールの情景を、地元の方々に発信し、ひざ突き合わせて語り合うことが大切である。そして、この春から、課題は尽きないが、地域の力で地域をつくる取組みが本格的にスタートした。このまちの全ての造りが終わるのは、順調に行っても平成32年、その後、暮らし・住まいの再建はさらに時間を要する。いまや我が国の地域の共通課題といえる、少子高齢・人口減少は、容赦なく、例外なくこのまちにもものしかかっており、まさに正念場である。

豊かな海と森を創り出すリアス海岸特有の地形、その風土から繰り返す災害の中でも継承されてきた「それぞれが小国ともいえる個性と文化性豊かな小集落」とひとの営みや風土に根付く生き方と考え方。それは、目に見える価値のみで評価されがちな地方再生の切り札とも称されるコンパクトシティとは、明らかに真逆の“まちなりたち”である。そして、訪問を重ねる度に、そのなりたちがこの地域の最大の魅力と感じ、ゴールの情景をそこに置き、行動する自分がいる。

この国において、どこにいるのかもはや見分けのつかない金太郎飴の地方の風景がある。それとは、一線を描く、地域の魅力の再生と創造、そのゴールの情景は、多分、巷で言われる“復興”という言葉とは、相当、かけ離れたものと思う。

人口減少は、ただそれをくいとめる方策のみでは、特効薬とはなり得ない。若人はある時、見聞を広げ、新たな経験をするために外に出るべきである。しかし、そこに誰かが住み、望ましくは再び戻りたいまち、暮らしたいまちであれば、超高齢先進国・日本においては、第二、第三の人生を、このまちで再びはじめることは十分可能である。若者はまちを出て、元気な年寄りにはまちに戻りやがて若者も年寄りになる。‘もの’ではなく‘ひと’、その循環が自然に成立するためには・・・、それは報道が繰り返し指摘する「復興は時間との闘い」とは明らかに異なる、時間をかけて創生していくべき地域の姿である。

話は変わるが、陸前高田の往来の中で、「当事者性とは何か」を考える。その場所にいながら、第三者性を保つひとは多く、当事者性を自ら宣言するひとは案外少ない。一方、その場所にいなくても当事者性を自らに課すひともいる。実にさまざまである。

これまで経験したことのない人口減少の時代ではあるが、当事者性を自認するひとを如何に育てるか、その数が増加すれば、‘ひとと地域’がきらりと光らせることができる絶好の機会である。このまちは人口減少は進んでいるが、それと反比例して“きらりと光るひと”は明らかに増加している。それは過去よ





## ■【編集後記】

今号でもお知らせしておりますが、夏休み期間中の8月はイベントが続きます。8月2日（土）は「来て☆見て☆はっけん！ほくそうけん公開デー」を開催します。今年は、昨年までの内容を大幅にリニューアルし、お子様はもちろん、大人でも楽しく建築やまちづくりを学ぶことができるイベントを企画しています。

また、8月6日（水）には、札幌市ケーズデンキ月寒ドームで開催される「サイエンスパーク」、8月9日（土）には、旭川地方合同庁舎で行われる「公共建築の日フェスティバル in 北彩都」に参加します。

ぜひ、たくさんの方のご参加をお待ちしております。

また、全道各地の道総研の研究機関でも施設公開を行っておりますので、お近くの道総研に足を運んでみてください。

詳しくは道総研イベント情報 (<http://www.hro.or.jp/event/event/>) をご参照ください。

（企画課 清水）

=====  
管理者からのお知らせ  
=====

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。

登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。

メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

### ■購読申込・変更・配信停止はこちら

[http://www.nrb.hro.or.jp/provide/sendmail\\_newsletter.html](http://www.nrb.hro.or.jp/provide/sendmail_newsletter.html)

変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

### ■各種お問い合わせメールフォーム

<http://www.nrb.hro.or.jp/sendmail.html>

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。